

令和2年度 倉吉北高等学校 学校自己評価表

学校運営方針

目指す生徒像

- ・いかなる困難に直面しても、強い信念を持って立ち向かう生徒
- ・将来の夢(キャリアプラン)を語る生徒
- ・故郷を愛し、故郷を大切に生徒
- ・社会の多様な変化に柔軟に対応できる生徒

目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・一人ひとりの生徒の進路実現に努める学校
- ・教職員が元氣な学校

今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進

評価基準

- A: 概ね達成(80%程度以上)
- B: 変化の兆し(60%程度)
- C: まだ不十分(40%程度)
- D: 方策の見直し(30%以下)

当初計画		評価結果				
評価項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
① 豊かな人間性の育成	○学校生活全体を通じて、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく思慮深い生徒を育成する ○自他を大切に生徒 ○様々な事柄に興味、関心を持つ生徒 ○環境保全に努める生徒	○教師・学級との関係、進路意識、部活動の満足度が、全国平均に比べ高い。(Hyper-QU検査による) ○中学校時に長期欠席傾向の生徒が欠席せず登校できている。 ○礼儀正しくさわやかに挨拶ができる生徒が多い。 ○講話などで静かに話しが聞け、集中して授業を受けることができる生徒が多い。 ○ボランティア活動への積極的な参加を推奨し「奉仕の心」の育成を目指しているが、一部の生徒の活動にとどまっている。 ○環境保全についての学習、活動が不十分である。	○生徒一人ひとりをしっかりと把握し、教職員の連携を密にし指導体制を整える。 ○生徒一人ひとりを大切に、褒める指導を心がけ、自己肯定感を高める。 ○探究学習では、様々な事に興味や関心を持つことができるように、課題をしっかりと考え選択させる。また将来の進路に役立つ研究、学習を行う。 ○生徒会を中心にボランティア活動の輪を拡げ活動する。特に、環境保全については、総合的な学習・探究の時間でも環境にかかわる課題を設定し、環境保全に対しての意識を高める。	○Hyper-QUで、不満足群に属する生徒への対応が十分ではなかった。 ○部活動での指導の成果もあり、礼儀正しくさわやかにあいさつできる生徒が多い。 ○支援の必要な生徒や不登校傾向生徒に一層の対応が必要。 ○地域や職業に関する探究活動を通じ、進路選択における課題を意識づけることができた。 ○探究のテーマ設定によってはSDGsへの関心を高めることができたが、全体としての意識づけは不十分。	C	○校長訓話、教員からの指導を、人格形成、在り方生き方教育の観点を踏まえて充実させる。 ○修学支援会議を定例化する。 ○配慮が必要な生徒等に対して学年・教科担任団の連携を密にすると共に、ケーススタディを行うなど修学支援体制を整え、サポートする。 ○定期的な個人面接を充実させる。 ○生徒の良いところを積極的に褒めるよう心がけ、自己肯定感を高める。
② 「確かな学力」の育成	○授業改革により生徒の考える力を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。	○アクティブラーニングへの取組が遅れている。 ○ICTを活用した授業への取組が遅れている。 ○教員間の授業公開が不十分。 ○基礎学力の定着が不十分な生徒が20%前後いる。	○模試の結果をふまえ、学力分析と対策を検討する。 ○マナトレ(進研)を朝学習で利用し、基礎学力の定着を図る。 ○全教科で公開授業をふまえた授業研究会を開催する。また、新課程についての研究も深める。 ○他校の先進的な取り組みや研究授業から学び、教員一人ひとりが授業力向上に努める。	○基礎学力育成の小テスト「マナトレ」を総合コース・調理科で実施。成績下位者(Dランク)の生徒数が減っている。 ○公開授業を実施することが出来なかった。 ○授業でのプロジェクター利用は増加しているが、iPad利用は不十分。	C	○研修を実施し、iPadを利用した研究授業を実施する。 ○教科指導の方法を改善する。 特に「主体的、対話的で深い学び」の推進。 ○入試作問をとおして中学校教育との接続を研究する。 ○教科研究会の中で新課程の指導内容、評価の仕方等について研究を深める。
③ 進路指導の充実	○生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。 ・国公立大学10名以上合格 ・公務員試験の合格者100% ・就職率100%(県内就職6割以上)	○一般入試で大学合格を果たせる実力をつけ切れていない。 ○自分自身のことや志望理由、将来の夢を他者に語れない、表現できない生徒がいる。 ○国公立大・難関大合格者数 H30…10名(防衛大、名古屋工大、鳥取大、島根大他) H31…7名(鳥取大、島根大、鳥取環境大、滋賀大、下関市大他) R 2…8名(島根大、鳥取環境大、室蘭工大、福知山公立大、名桜大) ○公務員合格 H30…2名(鳥取県警1人、自衛隊1人) H31…1名(自衛隊1人) R 2…3名(大阪府警1名、自衛隊2名) ○就職率100%(県内就職は5割)	○新入試制度への対応を確実に挙げる。 ○国公立大学の一般入試で合格する得点力をつける。 ○「総合的な探究の時間」における「課題研究」を充実させ、総合型選抜、学校推薦型選抜への対応を高める。 ○ポートフォリオの活用を推進し、学習習慣の改善や大学入試データ出願に備える。 ○個人面談を適切に実施し、生徒の心情の理解に努める。 ○個々の生徒の情報共有を、担任、副担任だけでなく、学年団、クラブ顧問とも図る。 ○ガイダンスや講演会を実施し、進路意識を高めていく。 ○進路学習などを通して、自己分析を行うとともに、進路に対し主体的に取り組む力を育成する。 ○Classi学習動画などを利用し、家庭学習の充実を図る。	○3年間をとおして系統立てたキャリア指導を実施、個人面談、適性検査などを活用し、早期の進路決定に向けた指導を実施した。 ○職業別・進路別ガイダンスや講演会など実施できず、低学年生徒の進路意識の向上が課題。 ○特進コースにおいては、0限授業の実施、放課後指導の充実のほか、総合型・推薦型選抜に対応した指導を実施。 ○国公立大学の一般選抜で合格する得点力について課題。一般選抜に向かう生徒は共通テスト500点近辺を取っているが、さらに積み上げる必要がある。 ○進学・就職とも3段階面接を行い、成果を上げた。 ○3年学年団との連携を緊密にし、受験対応を行うことができた。 ○大学17名、短大6名、専門等23名、就職27名 計73名(3/9現在) ○国公立大学合格 R2…鳥取環境大(2名)、新見公立大、大分県立芸術文化短大 ○公務員 R2…自衛隊、鳥取県警 ○就職(内定率100%) 県内58%・県外42% 日本郵便3、神鋼機器、エディオン、エスマート、チュウブ、日油、日鉄電磁、花王コスメプロダクツ小田原、ホテル玉泉、小銭屋、ホテル一畑、サンデリカ、ハンズダイニング など	C	○国公立大学の一般入試で合格する得点力をつける。一般入試で、共通テスト500点近辺から、もうひと壁越えるための、演習方法などの改善を図る。 ○早い段階から、公立鳥取環境大学など地元国公立大学への意識付けを面談をとおして行う。 ○新しい入試制度への対応をいっそう確実に挙げる。 ○「総合的な探究の時間」における「課題研究」を充実させ、キャリア形成意識を高め、進路実現につなげる。 ○キャリアパスポートの活用を推進し、総合型・学校推薦型選抜への対応を高めるなど、入試出願に備える。 ○リモートも含めた、説明会・ガイダンスの在り方を模索する。
④ 部活動等の充実	○部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。 ○全国大会で活躍する生徒を育成する。 ○全国大会入賞者1名以上 ○全国大会出場 チーム・個人 昨年度以上 ○県大会優勝 チーム・個人 昨年度以上	○80%の生徒が部活動に加入している。 ○全国大会入賞者数 H29…1名 H30…1名 R 1…0名 ○全国大会出場チーム・個人 H29…5チーム・15名 H30…4チーム・14名 R 1…4チーム・14名 ○県大会優勝チーム・個人 H29…5チーム・15名 H30…4チーム・14名 R 1…4チーム・14名	○部活動へ加入を奨励し、活発な活動を展開する。 ○礼儀・マナー・整理整頓の大切さを伝える。 ○他者への敬意・思いやり・仲間意識・優しさ・チャレンジすることの大切さ、より良い人間関係を築くことを体感させる。 ○県内外の優秀な中学生を勧誘する。	○運動部・文化部とも熱心に活動している部がある。一方で活動が停滞している部もある。 ○気軽に参加できる部が少ないので、なるべく多くの生徒が参加できるような工夫が必要である。 ○コロナ禍の中、感染症予防ガイドラインに沿った活動ができていた。 ○生徒会活動、委員会活動、週番活動について、従来どおりの活動となっているが、生徒の主体性を高める必要がある。 ○全国大会入賞者数 ○県大会優勝チーム・個人 R2…0名 R2…2チーム・20名 柔道男女	B	○部活動へ加入を奨励し、活発な活動を展開する。 ○部員の勧誘を充実させ、運動部では競技力の向上を目指す。吹奏楽部ではより音楽性の高い演奏ができるよう活動を充実させる。
⑤ 社会貢献活動の推進	○社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。	○他者を思いやり気持ち配りのできる生徒が多い。 ○部活動で募金活動、ボランティア、施設慰問、地域イベントに積極的に参加している。 ○ボランティアに参加している生徒が固定化している。	○ボランティア募集を各クラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう教員や生徒会から呼びかけを行う。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせ、活動発表の場を設ける。 ○ボランティア掲示板等を使い、参加した生徒の写真や活動内容、感想を掲示し、活動を広く生徒に知ってもらい、活動の参加者増加に繋げていく。 ○生徒全員が1年に1回はボランティア活動を行うようにする。	○ボランティア募集を各クラスに掲示、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけを行った。 ○ボランティアに参加している生徒が固定化傾向。(今年度は、コロナウイルス感染症の影響により募集が少なかった。)	B	○ボランティア募集をクラスに掲示し、積極的にボランティア活動に参加するよう教員や生徒会から呼びかけを行う。 ○ボランティア活動等を通して、社会と交流し自己の在り方生き方を考えさせる、発表の場を設ける等の工夫が必要。